

父・扇蔵の代表作「再演続け、流儀の財産に」

日本舞踊家の西川箕乃助（六三）が、父で人間国宝の西川流宗家、西川扇蔵（九八）の作品継承に意欲を燃やしている。国立劇場（東京・半蔵門）五月舞踊公演で披露するのが、狂言を

題材にした長唄「瓜盗人」（うりぬすびと）。一番の充実期とされる五十〜六十代に振り付けた扇蔵の代表作の一つで、「再演を繰り返し、流儀の財産にしたい」と意気込む。

瓜畑を荒らされた主人が太郎冠者の仕業と思ひ、かかしになって待ち伏せするコミカルな作品。太郎冠者をつとめる箕乃助は「一歩間違えるとドタバタになってしまう。要所で松羽目物の様式を大事にしたい」。主人は尾上菊之丞、真犯人の猪は藤間涼太郎。

二十七日午後一時半開演。ほかに藤蔭静枝らの荻江「松・梅・竹」、猿若清三郎の常磐津「祭りの花笠」など。一等席九千円。国立劇場チケットセンター 電話 0570・079900。

瓜の模様の扇を手に舞う西川箕乃助



（林朋実）